

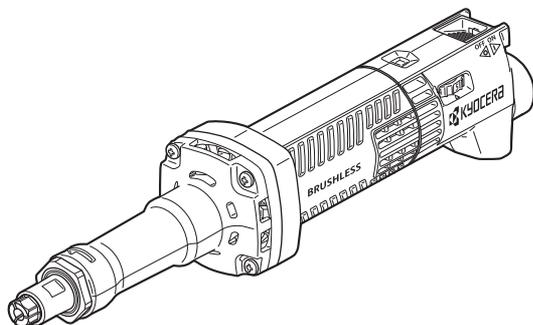
ストレートグラインダー

LSG6001

Lシリーズ

取扱説明書

保証書付



※ ご使用には別販売品のコントローラーと脱着ケーブルが必要です。

※ 先端工具は付属していません。

もくじ

ページ

安全上のご注意	1
電動工具に関する一般的なご注意	1
ストレートグラインダーご使用に際して	6
各部の名称・付属品・用途	14
各部の名称	14
付属品	14
用途	14
仕様・別販売品	15
仕様	15
別販売品	15
準備	16
先端工具の取付け、取外し	16
接続全体図	16
各部の接続	17
使用前の点検	20
試運転をおこなう	22
使用方法	23
コントローラーの電源スイッチの操作	23
スイッチ操作	24
電子制御機能について	25
回転数の調節	25
LED ランプ表示の見方	26
別販売品	27
取付方法	29
先端工具の取付け、取外し	29
作業方法	37
保守と点検	39
保証書	裏表紙



このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。
安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、本製品の能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。
また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
 - ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。ご使用上の注意事項は「⚠ 警告」と「⚠ 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。
 - ⚠ 警告：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。
 - ⚠ 注意：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
- なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 「⚠ 警告」・「⚠ 注意」以外に製品の据付け、操作、メンテナンスなどに関する重要な注意事項は「⚠」にて表示しています。安全上の注意事項と同様必ず守ってください。
- 本書に記載している「電動工具」は、本製品とコントローラー（別販売品）が脱着ケーブルで接続された状態の製品を示します。
 - お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
 - 他の人に貸出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

■ 電動工具に関する一般的なご注意

警告

A) 作業環境

1. 作業場は、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある場所で使用しないでください。
 - ・ 電動工具から発生する火花が発火や爆発の原因となります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
 - ・ 注意が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。
4. 十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
 - ・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。
5. アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
 - ・ アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康障害を発症させる物質です。

警告

B) 電気に関する安全事項

1. 電源プラグは、電源コンセントに合ったものを使用してください。
電源プラグを改造したり、アースした電動工具と一緒にアダプタプラグを使用したりしないでください。
 - ・改造していない電源プラグと適切な電源コンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. パイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアースされているものに身体を接触させないようにしてください。
 - ・身体がアースされたものと接触した場合、感電するおそれがあります。
3. 電動工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用したりしないでください。
 - ・電動工具内部に水が入り、感電するおそれがあります。
4. 電源コードを乱暴に扱わないでください。
 - ・電源コードを持って電動工具を運んだり、電源プラグを抜くために引っ張ったりしないでください。
 - ・電源コードを熱、油、角のあるところや動くものに近づけないでください。電源コードが破損したり、からまって感電するおそれがあります。
5. 屋外で使用する場合、屋外使用に適した延長コードを使用してください。
 - ・屋外使用に適した延長コードを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
6. 電動工具を湿った場所で用いることが避けられない場合、電動工具を接続する電源が労働安全衛生規則や電気設備に関する技術基準などに規定された感電防止用の漏電しゃ断装置（RCD）を備えていることを確認してください。
 - ・漏電しゃ断装置を使用することで、感電のリスクは低減されます。
7. アースに関する安全上のご注意
 - 1) 必ずアースしてください。
 - ・アースをしないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。
 - ・電源プラグのアース端子を用いてアースに接続してください。
 - ・テストや絶縁抵抗計をお持ちの場合は、アース端子と電動工具の金属部との間の導通を確認してください。
 - ・アースするとともに感電防止用の漏電しゃ断装置を備えた電源に接続することをお勧めします。

警告

- ・アース棒または、アース板を地中に埋め込んでアース線を接続するような電気工事は、電気工事士の資格が必要です。最寄りの電気工事店にご相談ください。
- ・漏電しゃ断装置やアースについては、下記の法規を参照し、十分理解した上で作業して下さい。
 - 労働安全衛生規則の第 333 条および第 334 条
 - 電気設備に関する技術基準を定める省令（平成 9 年通商産業省令）の第 10 条および第 11 条

- 2) アース端子をガス管に接続しないでください。爆発のおそれがあります。
- 3) 電源コードに延長コードを接続する場合は、アース線を備えた 3 芯の延長コードを使用してください。アース線のない 2 芯の延長コードを使用すると感電の原因になります。

8. ぬれた手で電源プラグに触れないでください。

- ・感電のおそれがあります。

C) 作業者に関する安全事項

1. 油断しないで十分注意して作業してください。

- ・電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意し、常識を働かせて慎重に作業してください。
- ・疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいたりする場合は、電動工具を使用しないでください。
- ・一瞬の不注意が深刻なけがや事故を招きます。

2. 安全保護具を使用してください。

- ・作業時は、常に保護めがねを使用し、必要に応じて、防じんマスク、すべり防止安全靴、ヘルメット、耳栓（イヤマフ）などを着用することで、けがや事故が低減されます。
- ・足元が滑りやすいところで作業する場合は、滑り止めのついた履物を着用してください。

3. 電源につないだ状態でスイッチに指をかけて電動工具を運ばないでください。電源プラグを電源コンセントにさし込む前にスイッチがオフになっていることを確かめてください。

- ・スイッチに指をかけて運んだり、スイッチがオンの状態で電源プラグを電源コンセントにさし込んだりすると、電動工具が意図せず始動し、けがや事故を引き起こすおそれがあります。

警告

4. 電動工具の電源を入れる前に、調整キーやレンチなどは、必ず取外してください。
 - ・電源を入れたときに、取付けたキーやレンチなどが回転してけがや事故のおそれがあります。
5. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - ・常に適切な足元およびバランスを維持することで予期しない状況でも適切に操作することができます。
6. だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は着用せず、きちんとした服装で作業してください。髪、衣服、手袋は回転部分に近づけないでください。長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
 - ・回転部に巻込まれるおそれがあります。
7. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。
 - ・集じん装置を使用することで粉じんの人体への影響を軽減できます。
8. 電動工具を使い慣れていても、安全性に注意して作業してください。
 - ・不注意な行動は、重大な傷害を引き起こすおそれがあります。

D) 電動工具の使用と手入れ

1. 無理して使用せず作業に合った電動工具を使用してください。
 - ・安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
 - ・小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
2. スイッチに異常がないか点検してください。
 - ・スイッチで始動および停止ができなくなった電動工具は使用しないでください。直ちに使用を止め、お買い上げの販売店に修理をご相談ください。そのままの状態で使用を続けるとけがや事故の原因となるおそれがあります。
3. 意図しない電動工具の始動を防ぐために、次の場合はスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。電動工具が意図せず始動するリスクを低減することができます。
 - ・電動工具の調整や刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合
 - ・保管、または修理する場合
 - ・その他危険が予想される場合

警告

4. 使用しない電動工具は、乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。また、電動工具の操作に不慣れな方には電動工具を使用させないでください。
 - ・ 電動工具に不慣れな方が使用するとけがや事故の原因となるおそれがあります。
5. 電動工具、付属品および先端工具は適切に保管し、使用前には必ず点検してください。
 - ・ 可動部分の芯ずれおよび位置調整、締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所や機能に異常がないか確認し、異常がある場合は、ご使用前に修理してください。
 - ・ 保守が不十分な場合、けがや事故の原因になります。
 - ・ 破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない部品交換や修理は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
6. 先端工具は、鋭利できれいな状態を保ってください。
 - ・ 先端工具を適切に手入れすることで、円滑な作業と容易な操作ができます。
7. 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具類は、作業条件や実施する作業に合わせて、それらの取扱説明書に従ってご使用ください。
 - ・ 指定された用途以外に使用すると、事故や故障の原因になります。
8. 正しい付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・ この取扱説明書、および当社総合カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、けがや事故の原因となるおそれがあるので使用しないでください。
9. 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスなどが付かないようにしてください。
 - ・ 握り部が滑ると、電動工具の安全な取扱いまたは、制御を妨げるおそれがあります。
10. 材料を加工する工具では、材料をしっかりと固定してください。
 - ・ 材料を固定するために、クランプや万力などを使用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
11. 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・ 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。
そのまま使用すると発煙・発火、感電、けがや事故に至るおそれがあります。

警告

〈異常・故障例〉

- 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- 電源コードや延長コードに深いキズや変形がある。
- コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
- 焦げくさい臭いがする。
- ビリビリと電気を感じる。
- スイッチで始動、及び停止操作できない。
- スイッチを入れても動かない。等

すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店に点検、修理を依頼してください。

12. 極端な高温や低温の環境下では十分な性能を得られません。

E) 整備

1. 電動工具は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
 - ・ 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、けがや事故のおそれがあります。
2. 本製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。

■ ストレートグラインダーご使用に際して

先に電動工具として共通の警告事項を述べましたが、ストレートグラインダーをご使用の際には、さらにつぎに述べる警告・注意事項を守ってください。

警告

研削、研磨に共通の安全警告：

- a) この電動工具は、研削、研磨用の工具として設計されています。ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
 - ・ 取扱説明書の安全警告を守らなかった場合、感電、火災またはけがや事故の原因になります。
- b) この電動工具で、上記以外の作業は行わないでください。
 - ・ 上記以外の作業をすると、けがや事故の原因になります。

安全上のご注意

警告

- c) この取扱説明書で推奨している先端工具以外は使用しないでください。
- ・電動工具に取付けることができても、安全に作業ができないおそれがあります。
- d) 先端工具は、電動工具に表示されている無負荷回転数 ($24,000\text{min}^{-1}$) 以上の最高使用回転数を有するものを使用してください。
- ・先端工具の最高使用回転数よりも速く回転させると、先端工具が破損し、飛び散るおそれがあり非常に危険です。
- e) 先端工具は、この取扱説明書で推奨している外径および厚さのものを使用してください。
- ・推奨していない寸法の先端工具を使用すると、適切に防護できません。また、適切な操作ができなくなり、けがや事故をするおそれがあります。
- f) 先端工具の軸サイズは、電動工具のスピンドルまたはコレットチャックに適切に合ったものを使用してください。
- ・電動工具の取付金具に合わない先端工具は、平衡を失い、過剰に振動し、また、制御できなくなるおそれがあります。
- g) 先端工具を取り付ける回転軸は、コレットチャックに完全に挿入してください。
- ・回転軸の保持が不十分であったり、先端工具までの回転軸の突き出し長さが長すぎたりすると、取り付けられた先端工具が緩み、高速で飛び出すおそれがあります。
- h) 破損した先端工具は使用しないでください。ご使用前に、先端工具の欠け、ヒビ割れ、破れまたは過剰な摩耗などが点検してください。電動工具や先端工具を落とした場合は、損傷がないか点検して使用するか、または新しい先端工具を取付けてください。先端工具の取付け後は、周囲の人を遠ざけ、先端工具の回転面から離し、電動工具を3分間試運転させてください。
- i) 作業者は、先端工具または加工品の小さな破片をしゃ断することができるフェイスシールド、安全ゴーグルまたは保護めがね、防じんマスク、耳栓（イヤマフ）、手袋および作業用エプロンなどの安全保護具を使用してください。
- ・安全ゴーグルまたは保護めがねは、様々な作業で発生し飛散する破片から目を保護できるものを使用してください。防じんマスクは、作業で発生する粒子をしゃ断できるものを使用してください。大きな騒音へ長時間さらされると、聴覚障害を引き起こすおそれがあります。
 - ・軍手などの巻き込まれるおそれのある手袋は使用しないでください。けがや事故の原因になります。

警告

- j) 周囲の人を作業場に近づけないでください。作業場に近づく場合は、作業者と同等の安全保護具を着用してください。
- ・加工する材料または破損した先端工具の破片が飛び散って、周囲の人がけがや事故をするおそれがあります。
- k) 壁などで隠れた配線または電動工具の電源コードを切断するおそれがある作業をするときは、絶縁された部分だけで電動工具を保持してください。
- ・先端工具が通電している電線に接触すると、電動工具の金属部が充電部となり、作業者が感電するおそれがあります。
- l) 始動時は常に電動工具を手でしっかりと保持してください。
- ・モーターがフルスピードまで加速するときの反動によって、電動工具が暴れるおそれがあります。
- m) 可能な限り、加工物を支持するために固定具を使用してください。一方の手で小さな加工物を持ちながらもう一方の手で電動工具を持って作業しないでください。
- ・小さな加工物を固定具で支持することで、電動工具を手でしっかり保持して制御することができます。ダボ、パイプまたはチューブなどの丸い材料は、研削中に転がり、回転する先端工具が挟まれたり引っかかったり、作業者に向かって飛んできたりするおそれがあります。
- n) 電源コードに、回転中の先端工具を近づけないでください。
- ・電源コードが切断されたりまたは引っかかったりして、手や腕が回転中の先端工具に引き込まれるおそれがあります。
- o) 先端工具が完全に停止してから電動工具を床に置いてください。
- ・回転中の先端工具が床面に引っかかり、電動工具が思わぬ方向に反動するおそれがあります。
- p) 先端工具を交換したまたは何らかの調整を行った後は、コレットチャックまたはその他の固定装置がしっかりと締められていることを確認してください。
- ・固定装置の緩みは、予期しない変化により制御を失い、緩んだ回転する部品が激しい勢いで飛び出すおそれがあります。
- q) 電動工具が体の近くにある場合は、運転しないでください。
- ・回転中の先端工具に衣服や装身具が引っかかり、回転中の先端工具に巻き込まれるおそれがあります。

安全上のご注意

警告

- r) 電動工具の風窓は定期的に掃除してください。
- ・風窓に溜まった金属粉じんを電動工具の内部に引き込み、感電するおそれがあります。
- s) 可燃性物質の近くでは、電動工具を運転しないでください。
- ・電動工具または先端工具から生じる火花で、これらの物質を発火させるおそれがあります。
- t) 冷却液が必要な先端工具は使用しないでください。
- ・水またはその他の冷却液を使用すると、感電のおそれがあります。

キックバックに関連する警告：

キックバックとは、砥石、パッド、ワイヤブラシなどの先端工具が挟まったりまたは引っかかったりしたときに突然発生する、電動工具の意図しない反動です。先端工具は挟まったりまたは引っかかったりすると急停止し、電動工具は先端工具の回転と反対方向へ激しく押しやられます。

例えば、砥石が加工する材料に挟まったりまたは引っかかったりした場合、砥石が這い上がったり跳ね上がったりすることがあります。砥石は、挟まった時点の砥石の運動方向によって、作業者の方向または反対方向へ飛びます。このような場合は砥石が破損することもあります。

キックバックは、電動工具の誤使用または間違った操作により発生します。次の項目を守ることで、キックバックを回避することができます。

- a) 電動工具をしっかりと握り、キックバックを引き起こしたときに抵抗できるように身体および腕を構えてください。
- ・適切に操作することで、作業者はキックバックなどの不意な反動を抑制することができます。
- b) コーナー、鋭いエッジなどを加工するときは、先端工具が跳ねたりまたは引っかかったりしないよう特に注意してください。
- ・コーナーや鋭いエッジ、凹凸のある材料を加工するときは、先端工具が引っかかり、キックバックなどの不意な反動を引き起こしやすくなります。
- c) 歯（チップ）付きノコ刃を取付けないでください。
- ・これらの刃は、頻繁なキックバックや制御の喪失を引き起こします。

警告

- d) 常に、先端工具の加工部が回転で材料から出てくる側（加工片が放出される側）と同じ方向に、先端工具を動かしてください。
- ・電動工具を間違った方向に動かすと、先端工具が加工物を這い上がり、電動工具がその方向に急激に跳ね返るおそれがあります。
- e) 回転やすり、ハイスピードカッタまたはタングステンカーバイドカッタを使用する場合は、加工物を常にしっかりと固定してください。
- ・これらの先端工具は、それらが溝内で少しでも傾くと引っかかり、キックバックが起きるおそれがあります。
 - ・引っかかると、溝から飛び出し、電動工具の制御を喪失するおそれがあります。

研削作業に固有の安全警告：

- a) この取扱説明書で推奨している先端工具の用途に従って使用してください。
- ・この取扱説明書で推奨していない先端工具は、適切に防護することができず、危険です。
- b) 回転する先端工具と同じ直線上、またはその奥に手を置かないでください。
- ・作業ポイントにおいて先端工具を作業者の手から離れる方向へ動かすと、キックバックにより、回転する先端工具および電動工具が作業者に向かってくるおそれがあります。
- c) 先端工具が挟まれたり、引っかかったりしているときは、電動工具のスイッチを切り、先端工具が完全に停止するまで電動工具が動かないように保持してください。
- ・キックバックが起こるおそれがあります。先端工具が挟まれたり引っかかったりした原因を調べて、それを取り除いてください。
- d) パネルまたは大きな加工物は質量でたわむ傾向があるため、先端工具の挟まりおよびキックバックのリスクが最小限になるように支持してください。
- ・加工物の端の近くで、先端工具の両側に対して加工物の下に支持台を置いてください。

安全上のご注意

警告

その他の安全警告：

- a) 使用電源は必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - ・表示を超える電圧で使用すると本製品やコントローラーの故障、けがや事故の原因になります。
- b) 被研削物の材質によって、使用する先端工具の種類が変わります。研削用途に適した先端工具を選んでください。
- c) 先端工具（砥石など）やコレットチャックの取付け、取外しのときは、必ず本製品のスイッチおよびコントローラーの電源スイッチを切り、コントローラーの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
 - ・不意な始動によるけがや事故の原因になります。
- d) 使用中は、振り回されないように本製品を確実に保持してください。特に始動時は気をつけてください。
 - ・確実に保持していないと、けがや事故の原因になります。
- e) 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
 - ・けがや事故の原因になります。
- f) 水、研削液などは使用しないでください。
 - ・乾式用のため、先端工具（砥石など）の破壊によるけがや感電のおそれがあります。
- g) 本体を万力などで保持した使い方はしないでください。
 - ・先端工具（砥石など）が破壊したとき、けがや事故の原因になります。
- h) 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。
 - ・火災ややけどの原因になります。
- i) 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。
 - ・けがや事故の原因になります。
- j) 使用中、製品の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い上げの販売店に点検・修理を依頼してください。
 - ・そのまま使用していると、けがや事故の原因になります。
- k) 誤って落としたり、ぶつけたときは、先端工具（砥石など）や本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
 - ・破損や亀裂、変形があると、けがや事故の原因になります。

警告

- l) 絶対に分解したり修理・改造しないでください。
- ・ 発火したり、異常作動してけがや事故の原因になります。
- m) 【事業者の方へ】先端工具（砥石など）の取換え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行なわせてください。
- 〈関連法令〉
- 労働安全衛生法 第 59 条
 - 労働安全衛生規則 第 36 条
 - 安全衛生特別教育規程 第 2 条

注意

- a) 先端工具（砥石など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
- ・ 確実でない和外れて、けがや事故の原因になります。
- b) 新しい先端工具（砥石など）を取付け、はじめてスイッチを入れるときは、先端工具（砥石など）の露出部から一時身体を避けてください。
- ・ 先端工具（砥石など）などが破壊したとき、けがや事故の原因になります。
- c) 試運転を励行してください。
- ・ 試運転時間は、*先端工具（砥石など）交換のとき3分間以上
*その日の作業始めのとき 1分間以上
 - ・ 試運転せずに作業を開始すると、思わぬけがや事故の原因になります。
- d) 先端工具でコードを切断しないように注意してください。万一、コードを傷つけたり、誤って切断した場合は直ちに電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
- ・ 感電のおそれがあります。
- e) 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っかけたりしないでください。
- ・ 材料や本製品などを落としたときなど、けがや事故の原因になります。
- f) 無理に押し付けて、回転数が大幅に低下するような力をかけないでください。
- ・ 作業効率を低下させるだけでなく、コレットチャックが変形して、けがや事故の原因になります。

安全上のご注意

注 意

g) 先端工具（砥石など）やコレットチャックが確実に締付けられていることを確認してください。

- ・外れて、けがや事故の原因になります。

h) 作業直後の先端工具（砥石など）やコレットチャックは高温になっているので、触れないでください。

- ・やけどの原因になります。

免責事項について

お客様または第三者が、本製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合または本製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いません。

騒音について

ご使用に際し、周囲に迷惑をかけないように、各都道府県などの条例で定める騒音規制値以下でご使用になる必要があります。必要に応じてしゃ音壁を設けるなどしてください。

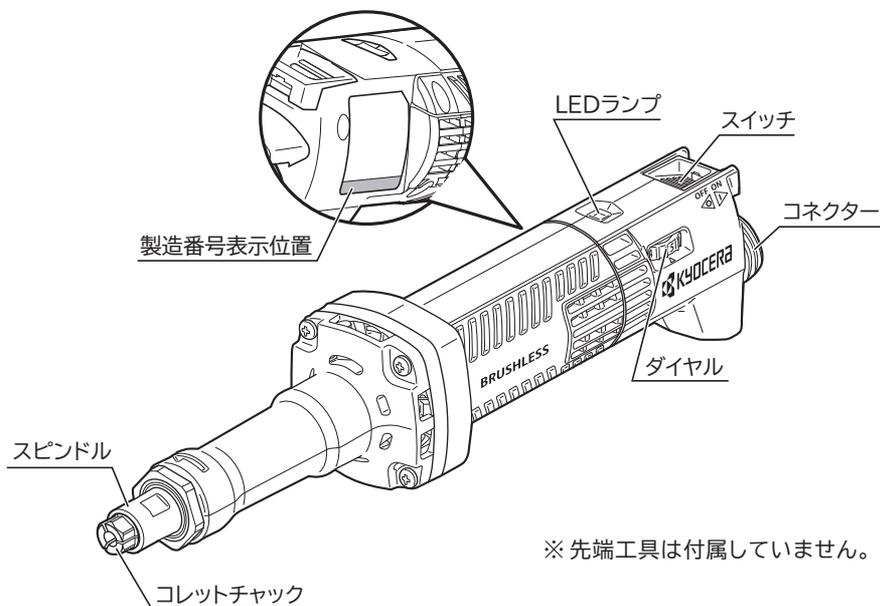


作業に適した保護具を必ず使用してください。

◆ この取扱説明書は、大切に保管してください。

各部の名称・付属品・用途

■ 各部の名称



※ 先端工具は付属していません。

■ 付属品

- ・ 両口スパナ (10 × 13mm) …………… 1
- ・ 片口スパナ (17mm) …………… 1
- ・ コレットチャック (Φ 6mm) (本体取付) …… 1
- ・ 防じんキャップ (本体取付) …………… 1

■ 用途

- ・ 鉄、青銅、アルミ鋳物などの研削、バリ取り、仕上げ、サビ取り

仕様・別販売品

■仕様

- 電源 単相・交流 100V 50/60 Hz
- 定格電流 11.2 A
- 消費電力 850 W
- 無負荷回転数 7,300 – 24,000min⁻¹
- 使用可能な先端工具 ※¹
 - 軸付砥石 砥石寸法 (外径) 32mm 以下
(厚さ) 25mm 以下
(軸径) 6mm
 - 軸付フラップホイール 砥石寸法 (外径) 30mm 以下
(軸径) 6mm
 - インターナル砥石 (平形砥石) ※² 砥石寸法 (外径) 38mm 以下
(厚さ) 19mm 以下
- 本体寸法 ※³ (長さ※⁴ × 幅 × 高さ) 356 × 67 × 82 mm
- 質量 ※³ 1.3 kg

※¹ 最高使用回転数 24,000min⁻¹ 以上のものを使用してください。
上記「使用可能な先端工具」以外は使用しないでください。

※² インターナル砥石を使用する場合は、砥石軸 (M10 または、W3/8-16) をお買い求めください。(27 ページの「別販売品」参照)

※³ 脱着ケーブル取外し時、コレットチャック取付け時の値です。

※⁴ 長さ寸法は、コネクターに取付ける防じんキャップを外した時の値です。

◆ 上記は当社の基準に基づいた値です。

■別販売品

- コントローラー
- 延長軸
- 砥石軸 (27 ページの「別販売品」参照)



- 別販売品は純正品をお買い求めください。
別販売品の詳細につきましては、総合カタログでご確認のうえ、商品お買い上げの販売店またはパワーツール取扱店でお買い求めください。
- 別販売品は予告なく変更することがあります。

<電子カタログ>

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/support/catalog/>



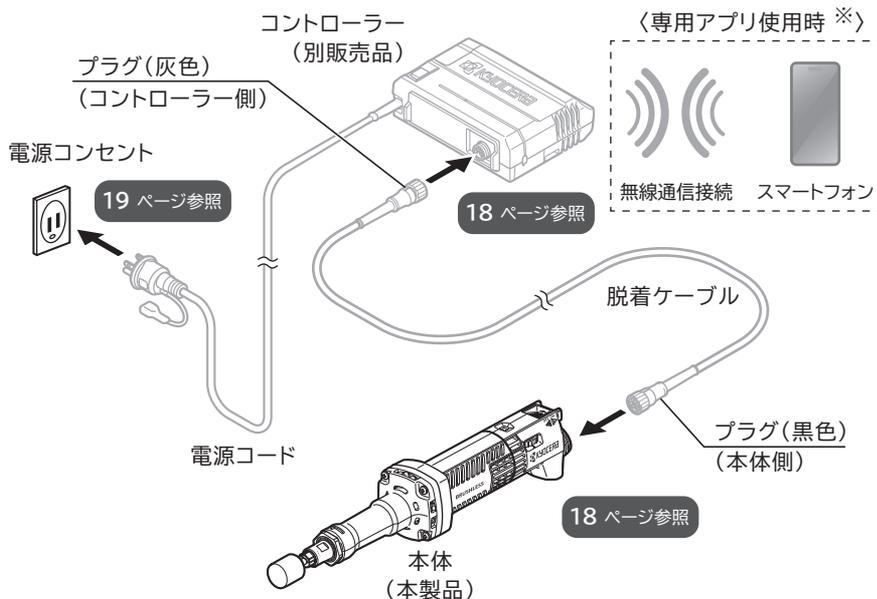
準備

■ 先端工具の取付け、取外し

- ・用途に合わせて先端工具を取付けてください。先端工具は市販品をお買い求めください。(29 ページ「先端工具の取付け、取外し」参照)

■ 接続全体図

この図を参考にコントローラーや脱着ケーブル、本製品の接続を行ってください。



※ 本製品の初回利用時に、本製品のスイッチとコントローラーの電源スイッチを ON した際に、本製品の LED ランプが点滅し、モーターが動作しない場合は、専用アプリからコントローラーのメニュー画面の「状況確認」をタップしてください。

エラーコード「Error_0200」が表示されている場合は、プログラム (ファームウェア) のバージョンが最新ではないため、専用アプリからファームウェアを更新してください。

※ 専用アプリをご使用の場合は、コントローラーの取扱説明書をご参照ください。こちらからも〈モデル番号〉“LC2010”、“LC2040”で検索できます。



- ・コントローラーの取扱説明書もよく読んで本製品をお使いください。
- ・スマートフォンと無線通信接続しなくても使用することができますが、専用アプリを使用する場合は、無線通信接続してください。
- ・専用アプリを使うことで、ファームウェアのバージョン確認と更新、保護機能が働いた原因と対処方法の確認ができます。
- ・スマートフォンはお客様でご用意ください。
- ・感電事故防止のため、ご使用に先立ちアース (接地) してください。
- ・シングル絶縁構造ですので法律により漏電しゃ断器の設置が必要です。感電防止のために、定格電流が 30mA 以下の漏電しゃ断器の設置をしてください。

■ 各部の接続

警告

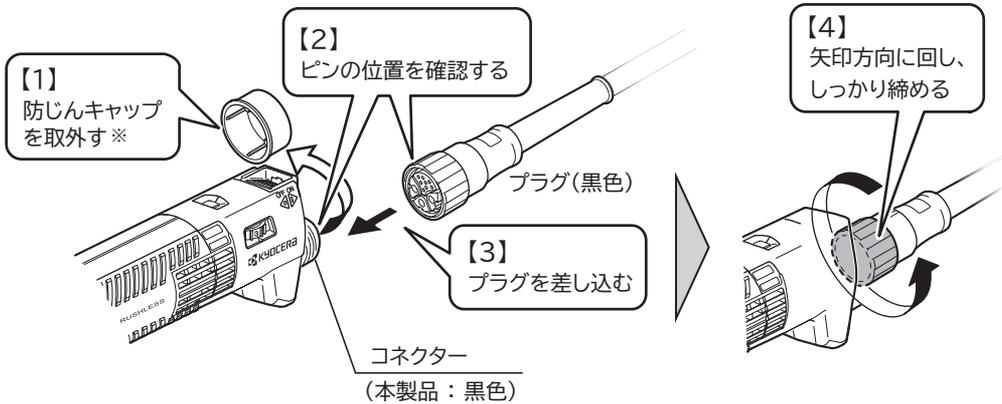
- ・ コントローラーおよび、脱着ケーブルを当社の L シリーズ製品以外で使用しないでください。
- ・ コントローラーには、安全のために再起動防止機能を設けていますが、脱着ケーブルのプラグを本製品のコネクタやコントローラーのコネクタに差し込む前に、電源コードのプラグが電源コンセントから抜けていること、また電源スイッチが切れていることを必ず確認してください。不意な始動によるけがや事故の原因になります。
- ・ 脱着ケーブルのプラグや本製品のコネクタ、またコントローラーのコネクタの接続面をぬらさないでください。感電の原因になります。
- ・ 脱着ケーブルのプラグや本製品のコネクタ、またコントローラーのコネクタの接続面に付着した異物や水分などは、電源プラグを電源コンセントから抜いた後に取除いてください。感電、発火の原因になります。

注意

- ・ 脱着ケーブルの接続が不十分な状態で使用しないでください。不意に抜けたり、故障の原因になりますので、確実に取付けてください。
- ・ 脱着ケーブルのプラグは本製品側とコントローラー側で色を分けています（本製品側：黒色、コントローラー側：灰色）。同じ色のコネクタに接続してください。無理に接続しないように注意してください。破損や故障するおそれがあります。
- ・ コネクタのピンと脱着ケーブルのプラグのピンの位置が合っていることを確認して挿入してください。無理に取付けるとピンが破損し、使用できなくなります。
- ・ コントローラーには再起動防止機能を設けており、本製品の電源を ON にしたまま脱着ケーブルを差し込んでも始動しません。

● 本製品と脱着ケーブルの接続

本製品のコネクターから防じんキャップを取外し、脱着ケーブルのプラグ（黒色）を接続します。取外しは逆の要領で行ってください。



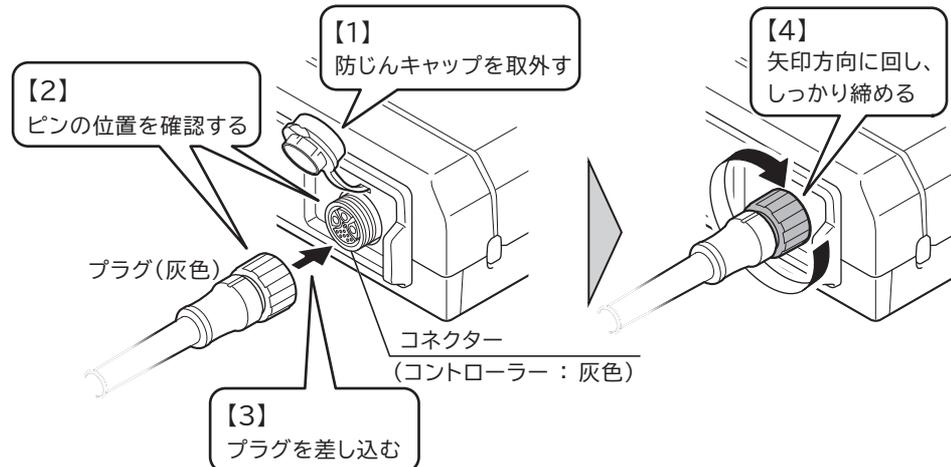
※ 防じんキャップは、紛失防止のため、コントローラーの防じんキャップに取付けることができます。



脱着ケーブルはしっかり締めてください。不十分な状態では、抜けたり、故障の原因になります。また、作業中も締め直してください。

● コントローラーと脱着ケーブルの接続

コントローラーのコネクターから防じんキャップを取外し、脱着ケーブルのプラグ（灰色）を接続します。取外しは逆の要領で行ってください。



準備

● 電源コードと電源コンセントの接続

警告

- ・ コントローラーの電源プラグを電源コンセントにさし込む前に、本製品のスイッチが切れていることを必ず確認してください。
- ・ 本製品は必ず銘板に表示してある電圧（100V）で使用してください。表示を超える電圧で使用すると、本製品やコントローラーの故障、けがや事故の原因になります。
- ・ コントローラーの電源プラグをさし込んだとき、電源コンセントががたついたり、電源プラグがすぐ抜ける場合は電源コンセントの修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、事故や故障の原因になります。

コントローラーの電源プラグを電源コンセントに差し込みます。

● 延長コードを使用する場合

電源コードを延長する場合は、下記の要件を満たすコードを使用してください。なお、延長コードを使用すると、本製品の能力が低下したり、保護機能が動き停止しやすくなります。

- ・ 延長コードは損傷のないものをご用意ください。
- ・ 電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードを使用してください。下表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。

コードの太さ (導体公称断面積)	最大の長さ
2.0 mm ²	10 m

■ 使用前の点検

① 作業する場所の確認

作業場は整頓し、明るくしてご使用ください。

② 本製品の確認

警告

- ・ 点検前にコントローラーの電源プラグが電源コンセントと接続されていないことを確認してください。接続されている場合は、安全のため、電源コンセントから電源プラグを抜いて以下を確認してください。

● スイッチ

スイッチが切れていることを必ず確認してください。スイッチが入っていることを知らずに電源プラグを電源コンセントにさし込むと、不意に動き、思わぬけがや事故の原因になります。(24 ページ「スイッチ操作」参照)

● 先端工具（砥石など）

警告

- ・ 先端工具（砥石など）にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。異常があると、先端工具（砥石など）が破壊し、けがや事故の原因になります。
- ・ 先端工具（砥石など）はヒビや割れがないか十分確認してから使用してください。
- ・ 先端工具（砥石など）は正規の状態に取付けられ、正しく締付けられているか確認してください。(29 ページ「先端工具の取付け、取外し」参照)

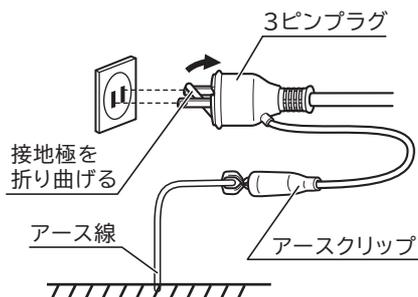
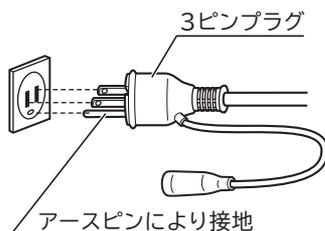
準備

③ 漏電しゃ断装置の確認

使用する電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用の漏電しゃ断装置が設置されていることを確認してください。

④ アース（接地）の確認

- 感電事故防止のため、ご使用前に必ずアース（接地）してください。
- 電源コンセントが3ピン（アース付）の場合は、3ピンプラグ（可倒式さし込み）をそのままさし込んでください。
- 電源コンセントが2ピン（2極電源）の場合は、接地極がありません。図のように接地極を折り曲げて電源コンセントに差し込み、アースクリップをアース線に接続してください。
- アースクリップやアース線に異常のないことを確認してください。テスターや絶縁抵抗計でアースクリップとコントローラーの金属部（外部）間が導通していないことを確認してください。
- アース棒やアース板を地中に埋め込んでアース線を接続するなどの電気工事の実施には電気工事士の資格が必要です。お買い上げの販売店や最寄りの電気工事店にご相談ください。



⑤ 使用電源の確認

- 必ず銘板に表示してある電圧（100V）で使用してください。表示を超える電圧で使用すると本製品やコントローラーが破損し、けがや事故の原因になります。
- コントローラーの電源プラグをさし込んだとき、電源コンセントががたついたり、電源プラグがすぐ抜ける場合は、電源コンセントの修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、事故や故障の原因になります。

⑥ 各接続部の確認

- 各接続部が確実に接続されていることを確認してください。
- 電源コードを延長している場合は、延長している電源コードの接続も確認してください。

■ 試運転をおこなう

 警告

- 本製品のスイッチを入れるときは、先端工具（砥石など）が材料などに接触していないことを確認してください。けがや事故の原因になります。
 - 試運転の前に、周りに人がいないか、本製品とコントローラーの周りに障害物はないか十分に確認してください。
 - 作業前に人のいない方向に先端工具（砥石など）を向け、必ず試運転を行って本製品や先端工具（砥石など）、コントローラーに異常がないことを十分に確認してください。
試運転時間は 砥石交換のとき…………… 3 分間以上
その日の作業始めのとき …… 1 分間以上
 - 本製品の初回利用時に、本製品のスイッチとコントローラーの電源スイッチを ON した際に、本製品の LED ランプが点滅し、モーターが動作しない場合は、専用アプリからコントローラーのメニュー画面の「状況確認」をタップしてください。
エラーコード「Error_0200」が表示されている場合は、プログラム（ファームウェア）のバージョンが最新ではないため、専用アプリからファームウェアを更新してください。
- ※ ファームウェアを更新しても本製品の LED ランプが点滅も点灯もしない場合は、コントローラーが故障している可能性があります。お買い上げの販売店にお問い合わせください。

使用方法

■コントローラーの電源スイッチの操作

⚠ 警告

- ・ コントローラーの電源スイッチを ON する際は、本製品のスイッチを必ず OFF にしてください。コントローラーには安全のために再起動防止機能を設けていますが、本製品のスイッチが ON の状態でコントローラーの電源スイッチを ON にすると、本製品が不意に起動し、思わぬけがや事故の原因になります。

⚠ 注意

- ・ 本製品の運転、停止は必ず本製品のスイッチで操作してください。コントローラーの電源スイッチで本製品の運転、停止を操作すると、コントローラーが故障する原因になります。
- ・ 作業終了後は必ず本製品のスイッチを OFF にしてから、コントローラーの電源スイッチを OFF にしてください。

● 電源スイッチを ON にする方法

コントローラーの電源スイッチの「ON」側を押すと、LED ランプが赤色に点灯します。

- ・ LED ランプが赤色に点灯している間、コントローラーは通電状態です。

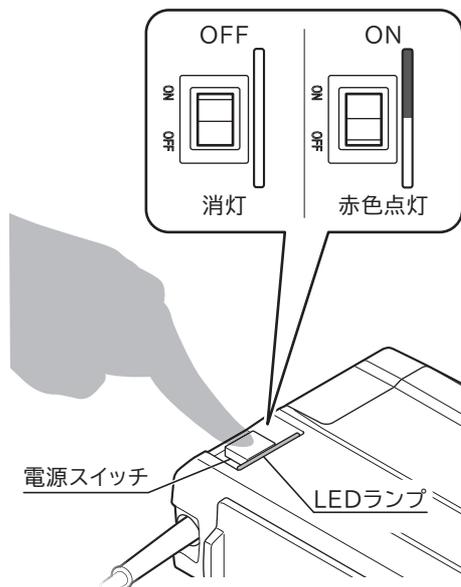
※コントローラーが通電状態になると本製品の LED ランプも点灯します。

● 電源スイッチを OFF にする方法

コントローラーの電源スイッチの「OFF」側を押すと、LED ランプが消灯します。

- ・ LED ランプが消灯している間、コントローラーは非通電状態です。

※コントローラーが非通電状態になると本製品の LED ランプも消灯します。

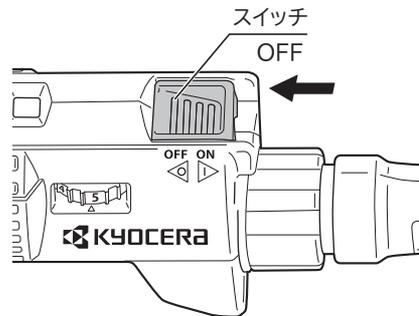
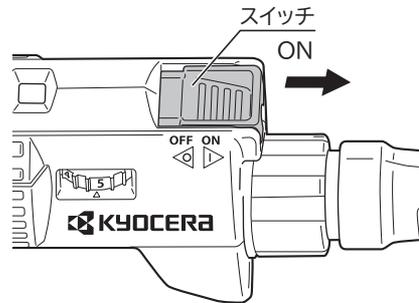


■ スイッチ操作

⚠ 警告

- 使用電源は、必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。表示を超える電圧で使用すると本製品やコントローラーの故障、けがや事故の原因になります。
- コントローラーの電源プラグを電源コンセントにさし込む前や脱着ケーブルのプラグを本体にさし込む前にスイッチが切れていることを必ず確認してください。不意な始動によるけがや事故の原因になります。
- 使用中は、振り回されないよう本体を確実に保持してください。特に始動時は気をつけてください。確実に保持していないと、けがや事故の原因になります。
- 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。けがや事故の原因になります。

- スイッチはスライド方式です。スイッチを矢印の“ON”方向にスライドすると電源が入り、モーターが回転します。
- スイッチを矢印の“OFF”方向に押し込むと電源が切れて、モーターの回転が停止します。



使用方法

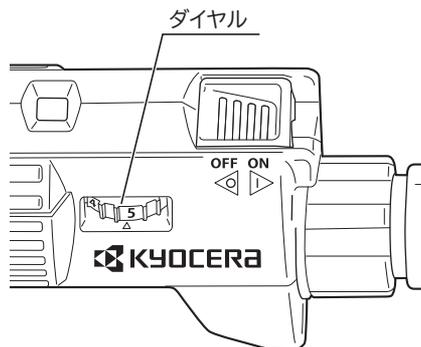
■ 電子制御機能について

本製品には下記の電子制御機能があります。

機能名	内容
フィードバック制御	フィードバック制御により、回転数の落ち込みが少ないため、高トルクで回転数が安定し、加工面がきれいに仕上がります。 (低速～高速の全領域において)
ソフトスタート	起動時の回転を制御し、反動を抑えることで安心して作業が開始できます。
保護機能	再起動防止保護、過負荷保護、温度保護などの保護機能が働きます。 詳細の内容と対処方法は、LEDランプ表示の見方（26 ページ）とコントローラー（LC2010、LC2040）の取扱説明書をご確認ください。

■ 回転数の調節

- ダイヤルを回すことにより、1～5まで無段階に回転数が調節できます。
- ダイヤル表示は1～5までであり、数字が大きくなるに従って回転数は高くなります。用途に適した回転数に合わせて使用してください。



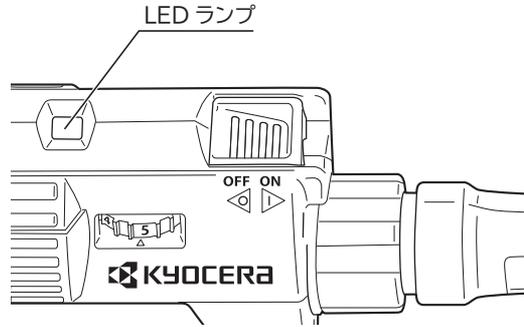
回転数目安表

(min^{-1})

ダイヤル	1	2	3	4	5
回転数	7,300	10,500	16,000	21,500	24,000

■ LED ランプ表示の見方

- ・ 本製品の LED ランプの表示により、動作の状態を確認できます。



本製品	コントローラー	モード
点灯	赤色点灯	通電状態
点滅 ※1		保護状態 ※2, ※3
消灯	消灯	非通電状態 ※4

※1 コントローラーの電源スイッチ ON、OFF 直後は、本製品の LED ランプが 2 ～ 3 秒間点滅します。

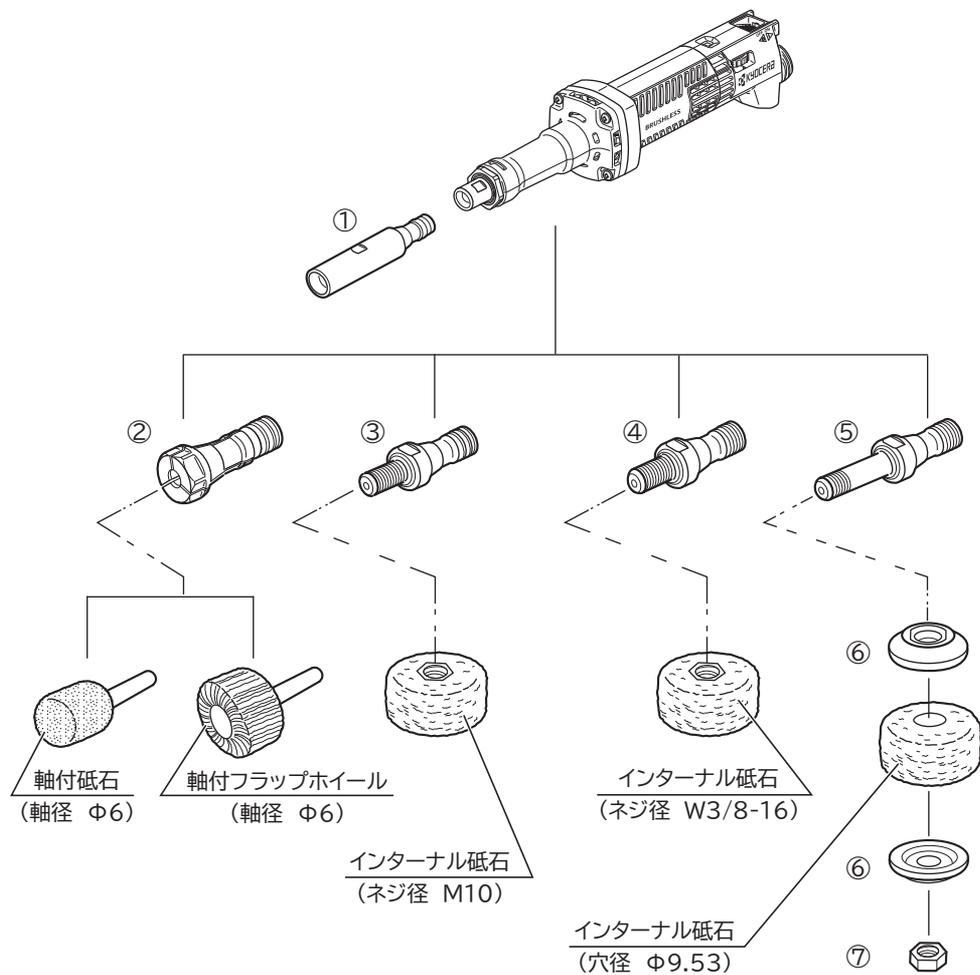
※2 保護状態になった場合、どの保護機能が働いているかをコントローラーの専用アプリのエラーコードで確認することができます。
専用アプリのダウンロード方法や保護機能については、こちらで
〈モデル番号〉“LC2010”、“LC2040” を検索して
コントローラーの取扱説明書をご確認ください。



※3 本製品の初回利用の際に保護状態となる場合は、プログラム（ファームウェア）のバージョンが最新でないことが考えられますので、専用アプリからファームウェアを更新してください。

※4 非通電状態は、本製品のスイッチとコントローラーの電源スイッチが OFF の状態です。

別販売品



先端工具（軸付砥石、軸付フラップホイール、インターナル砥石）は、市販品をご使用
ください。

別販売品



- ・別販売品は純正品をお買い求めください。
別販売品の詳細につきましては、総合カタログでご確認のうえ、商品お買い上げの販売店またはパワーツール取扱店でお買い求めください。
- ・別販売品は予告なく変更することがあります。

<電子カタログ>

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/support/catalog/>



No.	名称	No.	名称
①	延長軸 (70mm)	⑤	砥石軸 (Φ 9.53)
②	コレットチャック (Φ 6) (付属品)	⑥	フランジ
③	砥石軸 (M10)	⑦	六角ナット (W3/8-16)
④	砥石軸 (W3/8-16)		

取付方法

■ 先端工具の取付け、取外し

⚠ 警告

- 先端工具の取付け、取外しのときは、必ず本製品のスイッチおよびコントローラーの電源スイッチを切り、コントローラーの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。不意な始動によるけがや事故の原因になります。
- 先端工具にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。異常があると先端工具が破壊し、けがや事故の原因になります。
- 使用する先端工具の説明書をよくお読みください。

● 軸付砥石、軸付フラップホイール

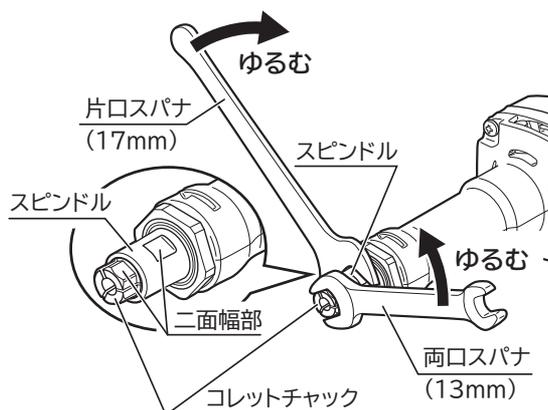
下記寸法の市販品をご使用ください。

- 軸付砥石：外径 32mm 以下，厚さ 25mm 以下，軸径 6mm
- 軸付フラップホイール：外径 30mm 以下，軸径 6mm

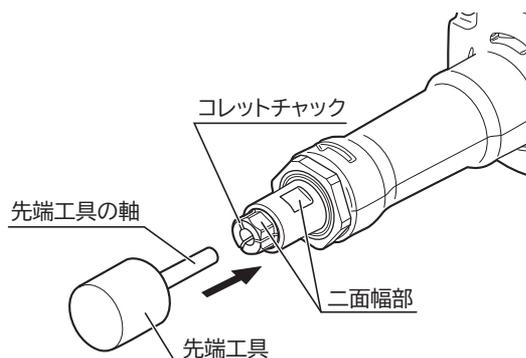
(取付け)

【1】 コレットチャックをゆるめます。

※簡単にゆるまない場合は、付属のスパナを使用してゆるめてください。(コレットチャックの二面幅部に両口スパナ(13mm)をスピンドルの二面幅部に片口スパナ(17mm)を引っかけてゆるめてください。)

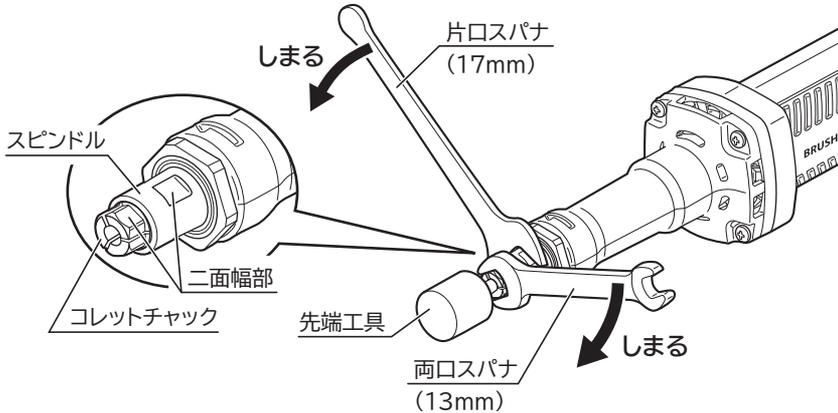


【2】 コレットチャックに先端工具の軸をさし込みます。



取付方法

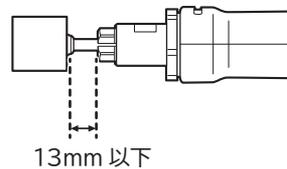
- 【3】 コレットチャックの二面幅部に両口スパナ（13mm）を
スピンドルの二面幅部に片口スパナ（17mm）を引っかけて十分に締付けます。



- 【4】 スパナを取外した後、コレットチャックと先端工具が手でゆるまないことを確認してください。



- 右図のように砥石軸の見える部分（突き出し長さ）を13mm以下にして取付けてください。長く出し過ぎると工具の振動が大きくなり、本製品に悪影響を与えるばかりでなく、けがや事故の原因になります。
- コレットチャックに正規の軸径より細い軸を入れたり、何も入れない状態でコレットチャックを締めないでください。コレットチャックが破損する場合があります。



（取外し）

- 取外しは、取付けの逆の要領で行なってください。

取付方法

● インターナル砥石（平形砥石）

下記寸法の市販品をご使用ください。

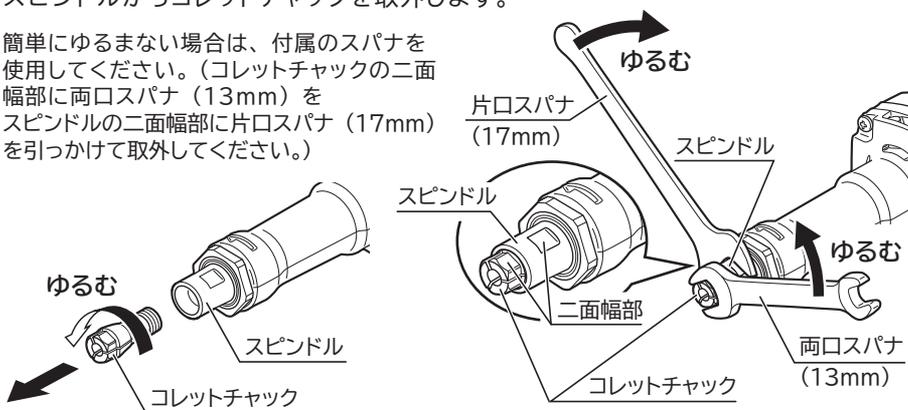
- ・ 砥石軸（M10）：外径 38mm 以下，厚さ 19mm 以下，ネジ径 M10
- ・ 砥石軸（W3/8-16）：外径 38mm 以下，厚さ 19mm 以下，ネジ径 W3/8-16

（取付け）

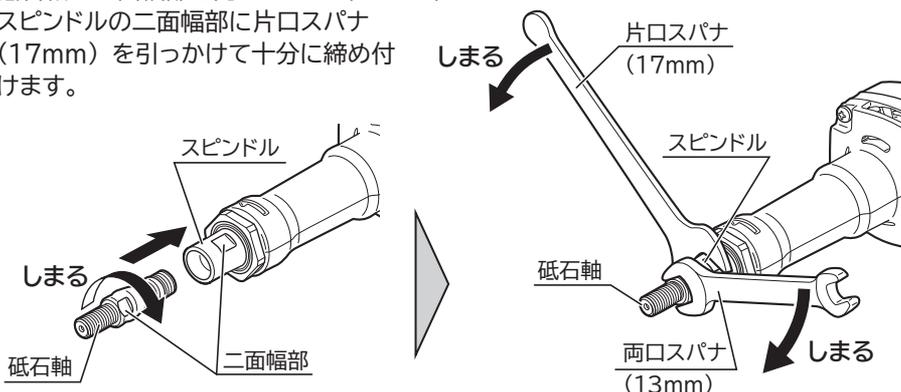
	<ul style="list-style-type: none">・ インターナル砥石（平形砥石）の使用には、別販売品の砥石軸（M10）または、（W3/8-16）が必要です。 本体取付のコレットチャックは使用しません。・ インターナル砥石（平形砥石）は、金属がインサートしてあるものを使用してください。
---	---

【1】 スピンドルからコレットチャックを外します。

※ 簡単にゆるまない場合は、付属のスパナを使用してください。（コレットチャックの二面幅部に両口スパナ（13mm）をスピンドルの二面幅部に片口スパナ（17mm）を引っかけて取外してください。）

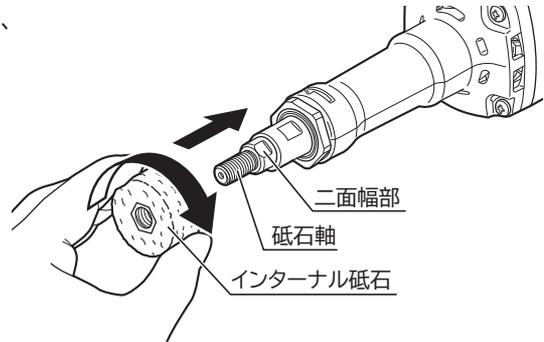


【2】 砥石軸（M10）または、（W3/8-16）をスピンドルに軽くねじ込んだ後、砥石軸の二面幅部に両口スパナ（13mm）をスピンドルの二面幅部に片口スパナ（17mm）を引っかけて十分に締め付けます。

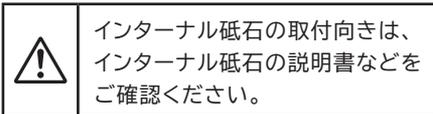


取付方法

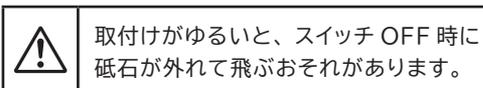
- 【3】 インターナル砥石（M10）または、（W3/8-16）を砥石軸に手でねじ込んでいきます。



- 【4】 インターナル砥石を手で固定し、両口スパナ（13mm）を砥石軸の二面幅部に引っかけて、インターナル砥石を十分に締付けます。



- 【5】 スパナを取外した後、砥石軸とインターナル砥石が手でゆるまないことを確認してください。



（取外し）

- ・ 取外しは、取付けの逆の要領で行なってください。

取付方法

● インターナル砥石（平形砥石）

下記寸法の市販品をご使用ください。

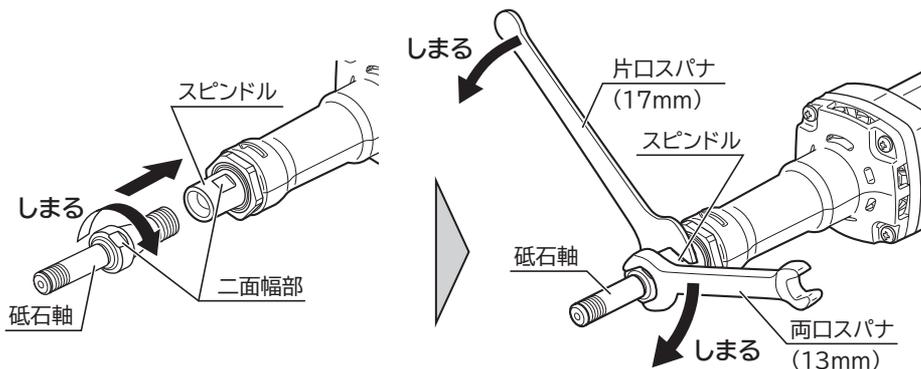
- ・ 外径 38mm 以下、厚さ 19mm 以下、穴径 9.53mm

（取付け）



- ・ インターナル砥石（平形砥石）の使用には、別販売品の砥石軸（9.53mm）が必要です。本体取付のコレットチャックは使用しません。
- ・ インターナル砥石（平形砥石）は、金属がインサートしてあるものを使用してください。

- 【1】 スピンドルからコレットチャックを外します。
（31 ページ「【1】 スピンドルからコレットチャックを外します。」参照）
- 【2】 砥石軸（9.53mm）をスピンドルに軽くねじ込んだ後、砥石軸の二面幅部に両口スパナ（13mm）をスピンドルの二面幅部に片口スパナ（17mm）を引っかけて十分に締め付けます。

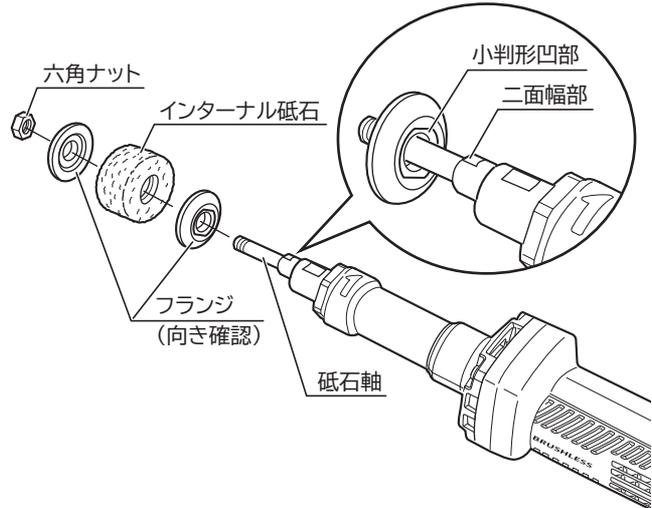


取付方法

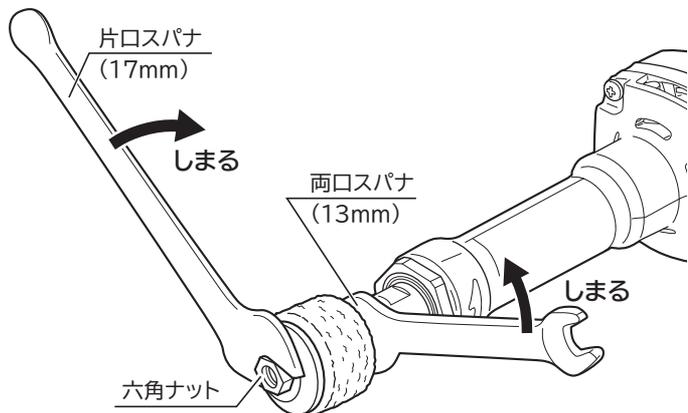
- 【3】 砥石軸にフランジ、インターナル砥石、フランジ、六角ナットの順に通します。
フランジの小判形凹部と、砥石軸の二面幅部の位置を合わせて通してください。



- ・ インターナル砥石の取付向きは、インターナル砥石の説明書などをご確認ください。
- ・ フランジの取付向きは、インターナル砥石側が平らな面になっていることを確認してください。



- 【4】 砥石軸の二面幅部に両口スパナ（13mm）を六角ナットに片口スパナ（17mm）を引っかけて、六角ナットを十分に締付けます。



(取外し)

- ・ 取外しは、取付けの逆の要領で行なってください。

取付方法

● 延長軸（70mm）について

延長軸を使用することにより、70mm 長い状態で作業できます。



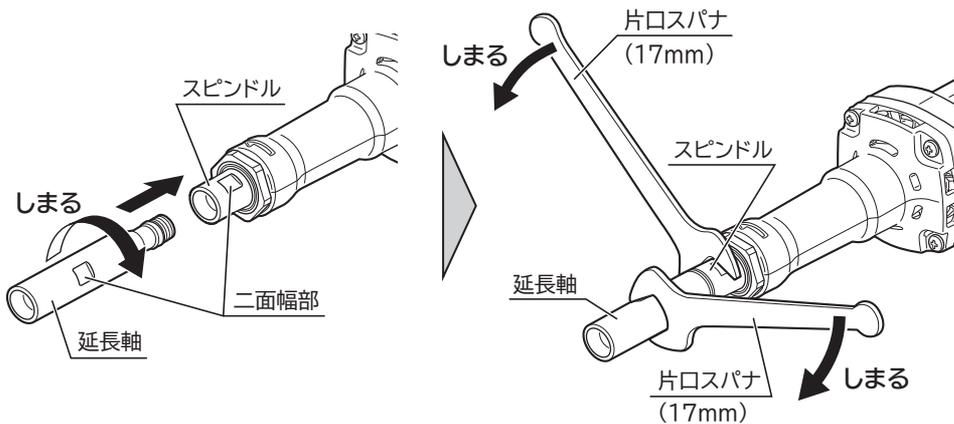
作業時の回転数は、 $13,000\text{min}^{-1}$ 以下でご使用ください。
目安はダイヤル2とダイヤル3の間です。（25 ページ「回転数の調節」参照）

（取付け）

- 【1】 スピンドルからコレットチャックまたは砥石軸を外します。
（31 ページ「【1】 スピンドルからコレットチャックを外します。」参照）
砥石軸の取付けと同様の手順で延長軸をスピンドルに取付けます。

延長軸をスピンドルに軽くねじ込んだ後、スピンドルと延長軸の二面幅部にスパナ（17mm）をそれぞれ引っかけて十分に締付けます。

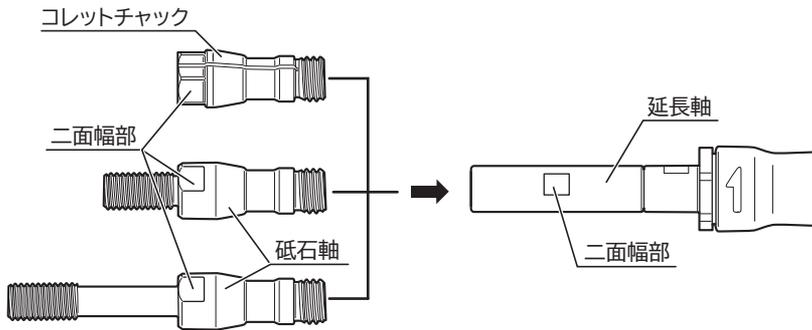
※ お手持ちのスパナ（17mm）を1本、ご準備ください。



取付方法

- 【2】 コレットチャックまたは砥石軸を延長軸に取付け後、付属のスパナを延長軸とコレットチャックまたは砥石軸の二面幅部に引っかけて十分に締付けます。

※ コレットチャックまたは砥石軸の二面幅部に両口スパナ（13mm）を延長軸の二面幅部に片口スパナ（17mm）を引っかけて締付けてください。



- 【3】 用途に適した先端工具をコレットチャックまたは砥石軸に取付け、付属のスパナで十分に締付けます。（29 ページ「先端工具の取付け、取外し」を参照）
- 【4】 スパナを取外した後は、コレットチャックまたは砥石軸と先端工具が手でゆるまないことを確認してください。

（取外し）

- 取外しは、取付けの逆の要領で行なってください。

作業方法

警告

- ・ 先端工具（砥石など）にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。異常があると先端工具（砥石など）が破壊し、けがや事故の原因になります。
- ・ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花が直接手足などに当たらないようにしてください。火災ややけどの原因になります。
- ・ 先端工具（砥石など）または加工品の小さな破片をしゃ断することができるフェイスシールド、安全ゴーグルまたは保護めがね、防じんマスク、耳栓（イヤマフ）、手袋および作業用エプロンなどの安全保護具を使用してください。安全ゴーグルまたは保護めがねは、様々な作業で発生し飛散する破片から目を保護できるものを使用してください。防じんマスクは、作業で発生する粒子をしゃ断できるものを使用してください。大きな騒音へ長時間さらされると、聴覚障害を引き起こすおそれがあります。
- ・ 先端工具（砥石など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。確実にでない、外れたりし、けがや事故の原因になります。
- ・ 軍手などの巻き込まれるおそれのある手袋は使用しないでください。けがや事故の原因になります。
- ・ 使用中は、本体を確実に保持してください。確実に保持していないと、けがや事故の原因になります。特に始動時は気をつけてください。
- ・ 使用後はスイッチを切って、先端工具（砥石など）の回転が完全に止まってから本製品を置いてください。回転が止まらないうちに置くことは危険です。また切粉やごみの多い場所に置くと、切粉やごみを吸込み、本製品が破損することがありますので注意してください。

● 研削作業

警告

- ・ 研削中に本製品を強く押し過ぎたり、先端工具（砥石など）でこじったりしないでください。モーターに無理がかかるばかりでなく本製品自体に強い反発力を生じ、けがや事故の原因になります。
- ・ 先端工具（砥石など）が材料に触れない位置でスイッチを入れてください。スイッチを入れてモーターの回転が十分に上がってから、先端工具（砥石など）を加工する位置に軽く押し付けて研削します。



あまり強く押しあてて研削すると、モーターの回転が落ちて効率が悪くなります。
また、研削面も粗くなり、きれいに仕上がりにません。

保守と点検

警告

- 保守、点検、部品交換などのお手入れの前には、必ず本製品のスイッチおよびコントローラーの電源スイッチを切り、コントローラーの電源プラグを電源コンセントから抜いてください。不意な始動によるけがや事故の原因になります。
- 絶対に分解したり修理・改造したりしないでください。発火したり、異常作動したりしてけがの原因になります。

● 各部取付けネジの点検

- ネジなどにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合は締め直してください。

● 使用後の手入れ

- 油污れなどをふき取り、使いやすい状態にしておいてください。乾いた布か石けん水をつけた布で本製品を拭いてください。
- ガソリン、シンナー、石油類での清掃は破損の原因になります。また、本製品の水洗いは絶対にしないでください。

● 作業後の保管

- 高温にならない乾燥した場所に保管してください。お子さまの手の届く範囲や落下のおそれがあるところは避けてください。
- 脱着ケーブルを取外した状態で保管する場合は、ゴミやほこりの浸入を防ぐために本製品のコネクタとコントローラーのコネクタに防じんキャップをかぶせてください。

● 修理について

- 本製品は厳密な管理の下で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合には、お買い上げの販売店にご用命ください。
- アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用した本製品の保守・点検・修理は受付できません。
- その他、部品の購入、あるいは取扱い上ご不明な点、ご質問など遠慮なくお問い合わせください。

NOTE

NOTE

部品の購入、故障、その他取り扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

商品のお問い合わせ窓口

■お問い合わせ

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/info/>



■電話によるお問い合わせ



0570-666-787

受付時間：

月曜日から金曜日（国民の祝日、当社指定休日を除く）
9時から12時まで、13時から17時まで

※通話料金はお客様負担となります。

回収のために下記のリョービ電動サンダーを探しています。

対象商品	外観色調	生産時期	製造番号
MS-350	ダークグリーン	1999年～2001年	44001～52000
		2001年～2002年	90001～103000
		2006年～2007年	178001～185000
S-801	ダークブルー	2001年	12001～15730
S-801S	ダークブルー	2000年～2001年	6001～7828
S-801M	グリーン	2004年～2005年	7001～9000

詳細は、こちらをご参照ください。

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/notices/2012/07/000371.html>



レシート貼付

インターネット店でご購入された場合は、
領収書を印刷して貼付ください。

持込修理

保証書

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。本書はお買い上げ日から下記保証期間中に故障が発生した場合に、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。詳細は下記をご参照ください。

モデル名	LSG6001	製造番号（表示位置は「■各部の名称」をご確認ください）
お客様	お名前	
	ご住所 〒	
		電話 ()
お買い上げ日	年 月 日	保証期間（お買い上げ日より） 1年
販売店	取扱販売店名・住所・電話番号	

●この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
 - 無料修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店に商品と本保証書をご持参ご提示いただき、お申し付けください。
- ご転居、贈答品等で本書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合には、京セラインダストリアルツールズ営業所にお問い合わせください。
- 保証期間内でも次の場合は有料とさせていただきます。
 - 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障または損傷
 - 保管や手入れの不備による故障や損傷
 - リースやレンタルなど使用者や使用状況が不明な場合
 - 水の浸入による故障または損傷
 - お買い上げ後の落下、輸送等による故障または損傷
 - 過剰な負荷で使用をされて生じた故障または損傷
 - 天災、異常電圧などによる故障または損傷
 - 使用損耗および経時変化による外観の劣化（刃物の切味低下、褪色、発錆、打痕、擦過キズなど）
 - 本書のご提示がない場合
 - 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合
 - モデル名、お買い上げ年月日、販売店名を証する物（レシートなど）の添付がない場合、あるいは字句を書き換えられた場合
 - 譲渡、転売、中古、オークション、質屋、リサイクルショップで取得された場合
 - 付属品（電池パック、充電器、キャリングケース含む）、別販売品、消耗品の場合
 - 商品の機能に影響しない音、振動、オイルのにじみなどの感覚的現象
 - 商品分解状態でのお持ち込み
- 修理品運搬などの付随的費用および商品を使用できなかったことによる損失（休業経費、代替資材費、役務経費等）の責任は負いかねます。
- 修理等で取り外した不具合部品は、当社所有といたします。
- 本書は日本国内においてご購入、ご使用の場合のみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保存してください。

お客様の個人情報、上記の目的以外には、一切使用いたしません。

This warranty is valid only for Japan.

■修理メモ

京セラインダストリアルツールズ株式会社

本社

広島県福山市松浜町 2-2-54 〒720-0802

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp>

